



BORDERLESS IR CO., LTD

ANNOUNCES NEWSLETTER

株式会社ダイキアクシス(4245 東証プライム)
2022年12月期第1四半期決算概要

2022年6月3日東京

2022年12月期第1四半期は増収増益で着地。主力の環境機器関連事業が大幅増加。再生可能エネルギー関連事業では小形風力発電事業に注力し、2025年までに総数70サイトの稼働を計画。

決算概要

○当第1四半期連結累計期間の同社グループを取り巻く経営環境は、新型コロナウイルス感染症のワクチン接種が進行し、各種制限緩和に伴う経済活動の正常化により景気回復が期待されているが、ウクライナ情勢の緊迫化等もあり、各種資材の高騰・納期遅延など世界情勢の不透明感の高まりによって景気の先行きは不透明である。

○このような状況下、中期経営計画「PROTECT x CHANGE」を推進している。具体的には、環境機器関連事業セグメントにおいては、海外における事業展開の推進、ストックビジネスとしてのメンテナンス事業及び上水エスコ事業の拡大、住宅機器関連事業セグメントにおいては、新商材の発掘等、安定事業から成長事業へ転化、再生可能エネルギー関連事業セグメントにおいては、循環型社会の実現と安定収益確保の強化、ポストFIT高付加価値事業・商材の発掘を行い、全社では、IT戦略を実現するための組織強化、生産性向上ツールとしてITを利活用していくとしている。

○当第1四半期連結累計期間の売上高は110億23万円(前年同期比+11.6%)及び売上総利益は21億47百万円(前年同期比+5.2%)、営業利益は4億54百万円(前年同期比+1.1%)、経常利益は5億32百万円(前年同期比+7.6%)、親会社株主に帰属する四半期純利益は3億52百万円(前年同期比+27.2%)となった。

○連結子会社の株式会社DAインベントの水熱処理事業を「環境機器関連事業」セグメントから、「再生可能エネルギー関連事業」セグメントへ区分を変更した。

○環境機器関連事業は、売上高は前年同四半期と比べ大幅増加。国内売上高は、大型案件(食品工場や製薬・医薬品工場等の産業排水処理施設)の工事進捗に応じた売上高の計上が寄与、海外売上高も新型コロナウイルス感染症拡大による景況悪化の影響を引き続き受けているが、イラクにおけるJICA支援プロジェクトへの浄化槽等の納入によって海外売上高は大きく増加している。地下水飲料化事業に関しては、ストックビジネスであるエスコ契約に係る売上高およびメンテナンス売上は新規契約によって増加している。結果、環境機器関連事業の第1四半期連結累計期間の売上高は57億68百万円(前年同期比+11.8%)、セグメント利益(営業利益)は、5億76百万円(前年同期比+15.9%)となった。

○住宅機器関連事業は、ホームセンター事業を展開するDCMグループの店舗向けのLED照明更新工事の受注、教育施設への家具納入などの特殊な商材の受注やマンション等への衛生機器等の納入案件は増加したものの、前年において多く発生した新型コロナウイルス感染症に関連した非接触型商材についての需要は落ち着きつつあり、結果、建設関連事業者等売上は減少。ホームセンター向けリテール商材の販売については、前第1四半期連結累計期間、メーカーにおいてウオシュレット等の出荷制限が発生、ホームセンター向けのリテール商材の売上は減少。住機部門工事は、第1四半期連結累計期間、ホームセンター事業を展開しているDCMグループの店舗建築工事が完成し、売上を計上、これにより、住機部門の売上は前年同四半期と比較して大きく増加。昨年度より新たに連結対象に加わった子会社の影響により、住宅サッシ・エクステリア関係の売上を計上。冷凍・冷蔵・空調設備売上については、案件の完成が前年同期比減少。卸売事業中心の当セグメントの中で当該売上項目は利益率が高く、セグメント利益の減少要因の一因となっているが、第2四半期連結会計期間での大型案件の完成に向けて現在工事は進捗中。ECビジネスは住宅設備関連工事のオンライン注文であるが、ホームセンター事業を展開しているDCMとの協業によるECビジネスに加え、当社独自運営による全国の住宅設備リフォームのECビジネス構築を進め、2022年1月よりウェブサイトの開設やインスタグラムでのPR活動の強化を実施。ウェブサイトでの全国の一般消費者への販売に加え、企業と提携することで当該企業従業員向けの福利厚生の一環として活用するための提案も進めている。結果、住宅機器関連事業の売上高は45億41百万円（前年同期比+4.1%）、セグメント利益（営業利益）は1億17百万円（前年同期比-40.3%）となった。

○再生可能エネルギー関連事業は、昨年10月に買収した株式会社サンエイエコホームの影響により太陽光発電に係る売電事業の売上高は大きく増加。なお、当該子会社買収前の太陽光発電に係る売電事業における売上は、DCMグループの店舗屋根を賃借して発電施設を建設し、固定価格買取制度（FIT）を利用した売電が主であった。当該子会社はFITを利用した売電も行っているが、太陽光発電施設の提案から施工・保守まで可能なので自社保有の施設を使った売電のみならず発電施設の販売も行っている。FITを活用した同社グループが従来行っていた売電の利益率と比較すると、施設の販売の利益率は低いことから売上高の増減率とセグメント利益の増減率には差異が生じている。小形風力発電事業は、当第1四半期連結累計期間、他社との共同参画している環境省の「CO2排出削減対策強化誘導型技術開発・実証事業」における売上を計上。FITを利用した小型風力発電に係る売電施設について当第1四半期連結累計期間、5サイトの連系が完了。現在17サイトが稼働し、2025年までに総数70サイトの稼働を計画。バイオディーゼル燃料関連事業は、バイオディーゼル燃料を5%混合することで軽油と同様に利用することができる「B5軽油」の営業強化に取り組み、契約件数が増加。同事業は前年同四半期に比べ売上高は増加。水熱処理事業は、現在新技術確立に向けた研究開発を行っており、売上は堅調に推移。結果、再生可能エネルギー関連事業の売上高は、5億57百万円（前年同期比+183.7%）、セグメント利益（営業利益）は、18百万円（前年同期比+41.0%）となった。

○その他の事業は、家庭用飲料水事業について、ボトルウォーターの契約者数の減少はあったが、サブスクモデルの水道直結型のウォーターサーバーの契約者数は増加している。この結果、その他の事業は売上高1億56百万円（前年同期比-1.7%）、セグメント利益（営業利益）は22百万円（前年同期比-19.9%）となった。

株式会社ダイキアクセス(4245 東証プライム) <https://www.daiki-axis.com/>

2022年12月期第1四半期決算短信については、こちらをご参照ください。

→ <https://www.daiki-axis.com/ir/library/>

リリースの免責事項

本リリースは、投資判断の参考となる情報の提供を目的としたものであり、投資勧誘を目的として提供するものではありません。投資方針や時期選択等の最終決定はご自身で判断されますようお願いいたします。なお、本サービスにより利用者の皆様に生じたいかなる損害についても、当社は一切の責任を負いかねますことをご了承願います。

リリースに関する照会先

Borderless IR 株式会社 <http://b-ir.co.jp/japanese/main.php>

〒103-0027 東京都中央区日本橋 1-2-10 東洋ビル 6F

TEL 03-4588-6706 担当:福田 徹

お問い合わせ <http://b-ir.co.jp/japanese/contact.php>

Borderless IR は、国内・海外向けIR情報配信専門の会社です。国内・世界有数のメディア、企業情報データベース、メーリングリスト等を通じ、海外投資家にダイレクトに企業の最新情報と本質的な強みを主としてニュースレターとアナリストレポートで配信しています。その他、海外IR支援全般を手掛けているプロフェッショナル企業です。

©Borderless IR Co., Ltd. All rights Reserved

本リリースに掲載された内容を許可なく複製、転載することを禁じます。